

ビジネス学部3年 松波 勇登さん 公認会計士試験に合格

合格率10.7%の難関となった令和元年公認会計士試験に、ビジネス学部3年の松波勇登さんが合格しました。

松波さんが会計分野に興味を持ったのは入学当初。西崎賢治先生のもとで会計学や簿記を学び、公認会計士を志しました。さらに、会計教育センターを活用して1・2年次に日商

簿記検定2級・1級を取得。そして、3年次に公認会計士試験を突破し、監査法人への就職内定も掴みました。松波さんは「公認会計士として国際的に活躍

できるよう語学学習にも励んでいます。何事にも挑戦し、道を拓きたいと思

います」と新たな目標を見据えています。



愛知淑徳大学クリニック 稲福繁院長 瑞宝中綬章受章

11月3日に2019年秋の叙勲・褒章が政府より発令され、愛知淑徳大学クリニック院長・健康医療科学部教授である稲福繁先生が「瑞宝中綬章」を受章されました。

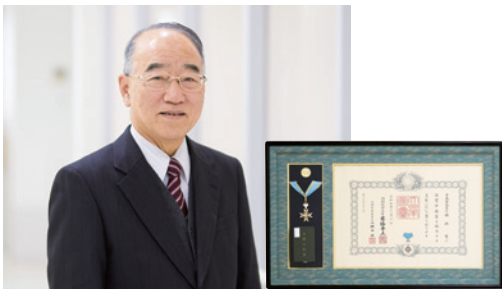
耳鼻咽喉科学を専門とする稲福先生は、愛知医科大学学長や同大病院副院長を歴任され、長年にわたり医師として臨床現場

に立ちながら教育・研究にも力を注がれています。「こ

れまで『患者さんのために』という志を貫いて、医療の

道を歩んできました。医療人をめざす学生の皆さんも、患者さんの未来を支えるために力を磨き、学び続けてください」と稲福先生

は語り、後進の成長を願っていました。



親子食育教室

11月30日、愛知淑徳大学健康相談室と健康栄養学科が連携して「親子食育教室」を開催しました。プログラム内容は、子ども向け調理実習、本学教員による保護者向け講演会、試食会・食育レクリエーションです。地域の小学

からだをつくろう！」をテーマに、管理栄養士をめぐす学生たちが主体となつて教室を運営し、毎日の食事の大切さや料理の楽しさを伝えました。地域貢献の一環であると共に、学生たちにとっては日頃の学修の成果を発揮し、食育を実践する貴重な機会となりました。



第3回オープンキャンパスに 2210人が来場

※保護者・付添者を除く

9月15日、本年度最後となる「第3回オープンキャンパス」が開催され、各キャンパスの雰囲気や施設、学びが体感できる機会とあつて、たくさんの方に会場いただきました。6、7月に引き続き、入試相談や学科(専攻)相談、キャンパスツアー、特別企画などさまざまな企画を開催。中でも、第2回オープンキャンパスで実施した公募制推薦入試対策講座(国語・英語・小論文)のDVD上映では、前回参加することができなかった受験生を中心に、いよいよ間近に迫ってきた公募制推薦入試に向けて傾向と対策についての最終確認を行う姿がとても印象的でした。



高校 図書講演会

11月14日、大学記念会堂にて図書講演会が行われ、今年は数学に関する著書を多数執筆されているサイエンスナビゲーターの桜井進氏に「小数点・誕生400周年記念、数学はマジックだ!」と題してご講演いただきました。前日から準備されての大掛かりな映像などを交えての講演は迫力もあり、数学

を使ったマジックから始まって、数学が生まれてきた物語、そして現在数学がどのように役立っているのかなど盛りだくさんの内容でした。その後の質疑応答や座談会でも生徒の素朴な数学の疑問に数多く答えてくださり、「数学の授業を受ける意欲が出てきた」という生徒も多く見られました。



高校 秋の文化祭

11月20日、金山の「日本特殊陶業市民会館」において秋の文化祭が開催されました。

午前中は箏曲、合唱、フルート、ギター・マンドリン、管弦楽、吹奏楽という音楽系クラブの演奏が聴衆を魅了しました。また、今年度は新たな試みとして映画研究会の作品が上映され、観客を大いに沸かせました。午後は演劇、ダンスの熱のこもった演技に会場中が惹きつけられました。この秋の文化祭は3年生の送別と同時に、各クラブの引退の場とも位置付けられます。学年を越えた絆を深め、文化クラブの活動の集大成を披露する場として、今後も秋の文化祭をよりよいものにしていきたいと思います。



中学 秋の文化クラブ発表会

11月22日、秋の文化クラブ発表会が行われました。「18歳成人」法案を取り上げた放送部作成の映像から始まり、フルート同好会、合唱部の美しいハーモニーが続きます。管弦楽部、吹奏楽部、ギター・マンドリンクラブは楽器それぞれ個性が一体となった、魅力的な音楽を創り上げました。ダンス部の圧倒的

なパフォーマンスや演劇部の創意工夫あふれる舞台演出には、多くの観客が引き込まれ、感動していました。イラスト同好会と美術部の素敵な作品が大アリーナ入り口に展示され、会場に彩りを添えていました。



セントキャサリンス生 愛知淑徳を訪問

12月13日～18日に姉妹校セントキャサリンス（オーストラリア・メルボルン）の生徒9人・教員2人が『JAPANESE STUDY TOUR』の最後の研修地として愛知淑徳を訪問。美術「だるまの絵付け」や書道「漢字を書く」の授業、剣道・バントワーリング・箏曲のクラブ活動などに参加しました。また、ホーム

ステイでは日本の生活や文化を体験。セントキャサリンス生たちはどのご家庭から大変親切にしてくださいました。帰国後、お礼のメールが多く寄せられています。ホームステイをお引き受けくださいますご家庭に改めて感謝を申し上げます。



ホームカミングデー

10月19日、今年で11回目のホームカミングデーを開催しました。高校第30回の卒業生が還暦を迎えるのを機に、同窓生が母校に還る日、ホームカミングデー（還暦同窓会）を学校と同窓会が共催で行いました。当日は170人の卒業生と、卒業時の担任を始めとする23人の先生方が参加していただきました。

学園70周年記念映画の上映、清明館のカフェテリアでの会食や懇談を通して賑やかに旧交をあたためていただき、全員の校歌合唱で会は閉じられました。準備を重ねられた同窓会役員と同窓生の方々に深く感謝し、この会が今後も永く続くことを願っています。



PTA講演会

11月6日、歌舞伎ソムリエのおくだ健太郎氏を講師にお迎えし、センテナリホールにてPTA講演会を開催しました。歌舞伎を楽しむ交流会「おくだ会」を主宰するおくだ氏は、歌舞伎の魅力を全国に広めていらっしゃいます。今回は「歌舞伎はこんなに楽しい」という演題のもと、歌舞伎役者に向けて観客が投げ

かける掛け声「大向う」を解説。おくだ氏は「大向うの掛け方が芝居の進行に影響を与えます。それほど大きな役割を、観客が担っているのです。そうした歌舞伎の魅力をぜひ劇場で体感してください」と語りなトークによって、笑い、驚き、感動を共有する講演会となりました。



2020年度入試説明会

10月26日に中学校入試説明会を開催しました。10時から大アリーナで6年生対象に中学生の受験体験談、2019年度入試問題の解説と2020年度からネット出願になるための出願方法について説明しました。13時30分からは5年生以下対象に5教科の模擬授業を初めて実施しました。理科の実験には多くの参加

者があり、社会の授業では県名を当てるかたに小学生や保護者の方も楽しんで取り組んでいました。運動系、文科系ともに部活動にも多くの小学生が参加しました。

校門を出ていく小学生はとても満足した表情。東ラウンジでの相談者も例年以上に多く、全体の参加者は1458人でした。

